シアトリカル
演劇的アントレプレナー・ワークショップ

『死を演じること＝生を享受すること』

開催日: 2022 年 10 月21日（金）18:30-21:30
場　所: 京都大学吉田キャンパス総合研究 2 号館 3F 講義室 2
対　象: 京都大学学生・教職員、一般（先着順 12～20 名程度を予定）
講　師: 田中 秀彦氏（成安造形大学空間デザイン領域 准教授）
申込フォーム: https://forms.gle/35was1EtJDyKEsTn7

申込締切期限:
10月 19 日（水）
23:59

講師:田中秀彦氏

成安造形大学空間デザイン領域 准教授

専門:舞台衣装／舞台演出／身体表現

https://www.seian.ac.jp/dept/teacher/24623

概要　「死は他者のうちにのみ現前している」（『全体性と無限』）

私たちは、いつも死んでいく人々を見送る側にいます。それは私たちが生きているからに他ならないのですが、そのたびに、私ではなく「あの人」が死んでいった事実を、私は負います。死は私にとっては、決して現在形で体験することのない何かであり、いつも、他者を通じてしか私たちは死を目の当たりにできません。アントレプレナーシップが、主に個の生き方のある種の性質であるとするならば、死をめぐる議論を避けて通ることはできないはずです。実際、第二次世界大戦や悲惨な社会政治状況下を生き残った／生き延びてしまった多くのアントレプレナーらは、他者の死を負い、経済的な活動や社会的活動を通して、生を紡いできました。また、企業の倒産や廃業はしばしば人の死に喩えられてきました。私たちは、自分自身や身近な人々、どこか遠くの誰かの死をどのように演じることができるのでしょうか。そして、死を演じることは、どこまでいっても知りえない自己の死や、他者に対して、どのように接近することを可能にするのでしょうか。このワークショップでは、個人の経験に基づく死や想像（イマジナリーな）の死を題材に、生と死を考えます。（文:柳淳也）

注意事項: 本セミナーの様子を写真撮影、動画撮影し、京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）講座のプログラム開発のために使用します。パンフレットの掲載やホームページ等での紹介に使用する可能性があることをご了承ください。また本プログラムは、演劇的手法を用いたアントレプレナーシップ教育の研究のデータとして匿名化し、使用します。

企画・問い合わせ先:京都大学経営管理大学院 特定助教（京都大学経営管理大学院 京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）講座） 柳 淳也（yanagi.junya.7y@kyoto-u.ac.jp）